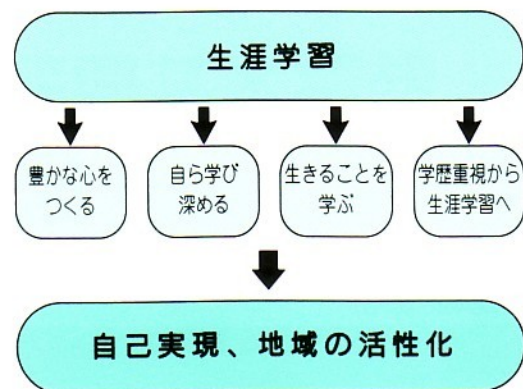


第1

生涯学習の
意義と課題

1 新しい学習の必要性

生活水準の向上や長寿社会の到来、自由時間の増大などの中で、私たちは生涯にわたる学習活動を通じて、自らの個性と能力を伸ばし、生きがいのある人生を送ることが大切になってきています。

また、科学技術の急速な進歩をはじめ、情報化や国際化などの進展の中で、絶えず新しい知識・技術の習得や国際的課題の学習を深めていくことが必要となっています。更に、地球環境や資源・エネルギーなどの新しい社会的課題も生じています。

こうした中で、私たち府民一人ひとりが豊かで充実した人生を送るために、生涯にわたって学んでいくことが大切です。

(豊かな心をつくる生涯学習)

京都府の調査によると、多くの府民は、趣味や楽しみのために、また、知識・教養を身につけたり、健康の保持・増進、職業能力の向上のためにも生涯学習が必要であると、その意義を認めています。

これは、私たち府民が、学習を通して心豊かで生きがいのある人生を目指すとともに、社会の変化に対し自分自身を磨き、高めていきたいという願いを持っていることを示しています。

これまで、学習と言えば、とすれば学校教育だけで終了するものと考えられがちでしたが、生涯を通じて自ら学び、自らこうありたいと思う生き方を求め、そこから充実感を得ることが、私たちの理想的な生活態度として望まれるようになってきました。

近年、生活水準の向上、人生80年時代の到来、自由時間の増大に伴い、私たちの意識は「物の豊かさ」とともに「心の豊かさ」を求めるようになっていますが、生涯学習はこうした真に心豊かな新しい生き方につながるものです。

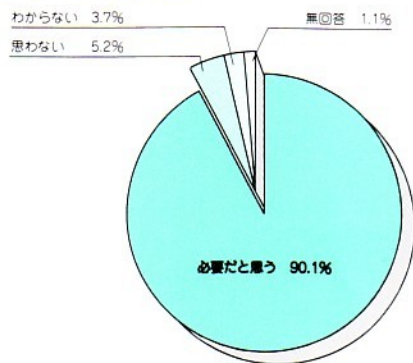
(自ら学び、深める生涯学習)

生涯学習は、身近な健康づくりや趣味、けいこごとから職業上の知識・技術、社会的な学習に至るまで非常に幅広いものですが、自分に合った学習を行うことが大切です。

また、その動機付けが特に重要で、だれもが主体的に取り組むことが基本であり、お仕着せの学習とならないようにしなければなりません。そして、初心者から経験豊かな人まで、その水準や段階に合わせて喜びを感じ、更に学習を深められることが必要です。

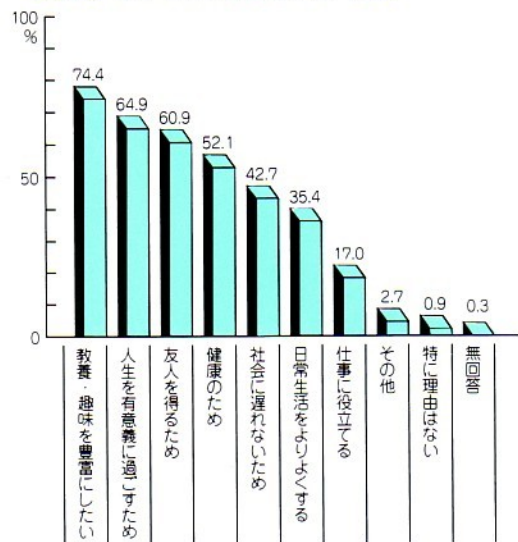
こうした意味で、生涯学習は単に「勉強」という感覚ではなく、積極的に生活を楽しみ、人生の生きがいとして、自分に合わせて息長く楽しむことが大切です。

生涯学習の必要性



(注) グラフ、表等で特に出典の記載のないものは、京都府「生涯学習に関する府民意識調査（平成3年12月）」による。以下同じ。

「生涯学習が必要だと思う」理由



(生きることを学ぶ生涯学習)

社会の急速な変化の中で、どうしても学ばなければならぬ社会的、地域的な問題があります。私たちは、これらの学習を通して人生を歩いていく方法を学び、そして人間として成長していかなければなりません。

そのためには、①変化する社会への対応の仕方、②それに対する自らの学習の仕方、③人と社会や人と自然との関係などについて学ぶことが大切です。

また、私たちの身の回りにある差別や偏見をなくしていくために、基本的人権に関する学習が大切です。

生涯学習では一人ではなく他の人とともに学ぶ中で、意見を交換し、互いに高め合い、広い視野に立って、学習や交流の輪を広げていくことが大切です。

私たちは学習を通して、いろいろな知識を得て、自ら考える中で、さらにこの知識は意識へと高まり、そして地域活動やボランティア活動などを通じて、そこに喜びや生きがいが生まれるようになります。

このように生涯学習は、それが深まるにしたがって個人や仲間の知識・意識や生活の向上にとどまらず、地域や社会のあり方にもつながっていきます。

言い換えると、生涯学習は、一人ひとりが心豊かな人間形成を図り、充実した人生を過ごすとともに、それが地域の活性化、ひいては我が国全体の文化の発展につながるという重要な意義を持つものです。

(学歴重視から生涯学習へ)

我が国では、学校教育が教育の根幹ですが、これまでの学校教育に対する過度の依存から生じた学歴偏重の社会意識を改めるため、生涯にわたって学ぶことを尊重していくという大きな流れが生まれつつあります。その意味において、生涯学習は、我が国が長年にわたって築いてきた従来の教育のあり方を見直すという大変重要な意味を持っています。

私たちは、この生涯学習の流れの中で、いつ、どこで学んでも、その成果が適切に評価されるような社会をつくっていくことが大切です。

また、私たちは、小さい時から主体的に学ぶという生涯学習の基礎的な能力・態度を身につけることが大切です。特に、学校教育は、自ら学ぶ力を養い、個性を伸ばし、生涯にわたって学習できる基礎や基本を育てるという重要な役割を持っています。

そのため、学校は、家庭や地域社会と手をつなぎ、連携していく中で、知育のみならず人間の心や身体の発達を重視した教育を推進し、生涯学習の基礎を身につける視点に立って、人間形成という教育機能を十分発揮することが求められています。

更に、府民が生涯にわたって、身近で、手軽に学ぶことのできる環境をつくっていくためにも、これからの学校は教育の場としてばかりでなく、身近な地域社会に開かれた生涯学習の場としての役割も求められてきています。